

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4078400100		
法人名	社会福祉法人 多門福祉会		
事業所名	彌栄苑グループホーム		
所在地	福岡県八女郡広川町大字新代1432-1 (電話) 0943-32-5630		
自己評価作成日	平成 28 年 9 月 17 日	評価結果確定日	平成 28 年 12 月 13 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

週3回、入浴としている。  
同敷地内に吉山内科整形外科がある為、急変時の対応が出来る。  
花見学、戸外の外出を積極的に取り込んでいる。  
個別ケアに力を入れている。  
誕生会に誕生者の家族を呼んで一緒にお祝いしている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成 28 年 10 月 18 日	

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、国道から入った小高い敷地内の団地や住宅地に囲まれた、閑静な場所に位置する洋風の2階建ての建物の2階にある。季節に応じて花見のドライブや外食等外出の機会が多い。利用者がやりたいことや要望をできるだけ速やかに取り入れるようにしている。法人合同の祭りに地域の方々の参加があり、ボランティアの方が訪れる機会も多い。地域との交流に力を入れている事業所である。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【1 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念にも「地域と共に」と掲げているように、地域との連携を持つように心がけている。毎朝の朝礼時には、理念を復唱し、再確認している。	地域密着の視点をふまえ、わかりやすい事業所独自の理念がつけられている。朝礼時理念を唱和し、事業所玄関に掲示している。笑顔で声かけ等理念の実現に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々の慰問や近隣の保育園児の慰問など相互交流を図っている。年1回の法人合同のふれあい祭りなどを企画し地域交流を図っている。	自治会に加入している。地域の道路愛護や餅つき大会に参加している。中学校職場体験や介護専門学校の実習の受け入れをしている。近所の人がギターで歌を歌ったり体操やレクリエーションをしてくれたり、野菜のおすそ分けを頂くことがある。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や接し方、利用者の暮らしぶりは、まだまだ地域に知らされていない部分はあると思うので、今後、地域において、勉強会や相談窓口を開いていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議利用者の状況や事務所の取り組み方を報告している。役場の職員や民生委員、地域代表の方をメンバーに入れ、情報交換を行い、サービス向上に活かしている。	2か月に1回運営推進会議が開催されている。利用者及び家族の代表、行政職員、民生委員、地域代表者が参加している。利用者やサービスの状況報告、地域や他グループホームの状況等の意見交換をしている。会議で出した意見をサービス向上に活かすように取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは、利用者の保険切り替えや制度に関して相談し連絡を取るようになっている。運営推進会議の役員としてメンバーに入ってもらい事業所のケアの取り組みを報告し情報交換を行っている。	日頃から介護認定更新手続きや相談・報告で役場を行き来する機会が多い。行楽案内のチラシを持参し役場においてもらっている。同法人内の隣接施設で体操や健康のチェックを委託している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、事務所が二階にある為、事故防止の為、出入口の一ヶ所を施錠している。昨年より、玄関を開放するように取り組んでいる。	玄関や居室は日中は施錠していない。玄関のカーテンに鈴をつけている。外出傾向がある利用者の状況把握を行い、見守りや付添って散歩をしている。身体拘束に関するマニュアルがあり、内部研修を全職員に行っている。参加できない職員には資料を配布している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者への虐待は職員の間でも絶対ないよう努めている。入居者への日頃の言葉遣い、態度にも注意を払っている。施設でも虐待防止を撤回する為の職員の面接を行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	インターネットで資料を出し、ミーティングの時話し合い、理解できるように努めている。家族会で説明している。	家族へは権利擁護制度について、必要時説明をしている。毎年行われる家族会で説明する予定である。外部研修に行った職員が、全職員に伝達研修をしている。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時説明を十分行い、その都度質問には答え、理解・納得してもらっている。当初の契約に限らず報酬加算の必要性の説明や料金改定がある場合は理由を説明し署名捺印を貰っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議と家族会を合同で開催し、意見交換などを取り入れ運営に反映させている。	日頃の生活の中で職員は利用者の思いや要望を聞くように心掛けている。外出希望がある利用者と買い物に行く等できる範囲で要望を実現している。家族会は年1回ある。面会時や電話連絡時に家族の意見や要望を聞くようにしている。前もって外出予定を知らせてほしいという意見があり、現在は外出予定をわかりやすい場所に掲示するようにしている等家族の意見を取り入れている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度職員会を開き職員の意見交換を行い、話し合いの場を設けている。意見を出しやすい環境づくりを心掛けている。	自己評価は管理者が全職員の意見を取り入れながら取り組んだ。管理者は声かけをして職員が話しやすい環境づくりを心がけている。ミーティングで出した意見は、全職員で話し合いながら取り入れている。休憩時間の取り方やメニューの決め方について現在検討をしている。職員が代わる時は引き継ぎ期間がある。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各人の役割を持たせ、責任感、向上心を持てる職場環境を整えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員採用時は、性別、年齢等について差別することなく、偏見をなくすよう配慮している。又、職員の能力を十分発揮できるように、人材育成に努めている。	採用選考に当たっては、年齢等特定の理由で採用対象から排除しないようにしている。定年後希望があれば、パートで再雇用している。資格取得・法人内の異動希望にも対応して、働きやすい職場づくりを目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者に対する人権は、介護するにあたって、十分に尊重している。人材教育については、外部研修を受け、全職員へ周知している。	全職員は内部研修で人権についての研修に参加している。研修の記録や資料はある。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成の為に、すべての職員が外部研修を受け入れられるように努めている。また、毎月の職員会議の中で、勉強会を行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の管理者や職員との交流を行い、情報交換をしている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでに本人や家族からの不安や要望を聞き、信頼関係に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安・要望を聞き、相談する家族の立場に立って話を聞くよう関係作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の実情や要望を聞いたうえで何を必要としているかを見極め、対応に努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護に当たりながら、一緒に過ごすことで本人の個性や力を発揮するように努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活と共に職員と家族が信頼関係を持ち支え合うよう努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月1、2回馴染みの人達が集まる会があるので、それに参加していただいている。入居者の友達や知人が気軽に面会できるような雰囲気作りを心掛けている。	利用者に馴染みの人や場所について、職員は利用者や家族から情報を得ている。電話の取次ぎや年賀状を書くのを手伝ったり、法人内の特養に入所している家族に会いに行く等、つながりを継続できるように援助している。家族の協力を得て馴染みの美容室やお店の買い物に行っている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格などを把握し、孤立することがないように心がけている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した利用者や家族にも時々連絡を取り、相談や支援に努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自分の思いを伝えられる人は、多いので、なるべく一人ひとりの思いを聞き、希望に添えるよう努めている。	入所時に意向の確認を行うと共に、日々利用者の思いや意向の把握に努めている。話をじっくり聞く時間を作ったり、意向が伝えられない利用者の行動言動等の様子から、以前行っていた書道や縫い物ができるように環境を整えるなど実施をしている、また家族へ相談を行うなど希望に添えるように努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員が利用者の生活歴やこれまでの生活環境などを把握するよう努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の一日の過ごし方、心身状態等を把握してケアに努めており、個々の介護日誌に、その日の過ごし方、心身状態などを記録し、利用者の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回の職員会議で利用者の意見交換を行い、介護計画を作成している。	6ヶ月に1回の見直しと状態の変化があった時に、職員会議や個別的に話し合いを行っている。担当制を取っており、モニタリングや伝達ノートを使った情報収集を行いケアプランに繋げて本人本位のプランの作成を行い、プランの説明を本人家族に行い署名捺印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアで気づき、工夫していかなければいけない事は記録し、情報を共有しながら、介護計画の見通しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズに応じて、多様な支援の方法を考え、柔軟な支援やサービスができるように取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源としては、民生委員やボランティアの協力を得ている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の家族の希望を聞き、かかりつけの病院を受診できるようにしている。	利用開始前の受診経過や受診の希望により対応をしている。今までの主治医への受診時には、職員が付き添い送迎をし、受診結果については家族へ電話連絡をすぐに行っている。入院時には家族は直接病院へ行ってもらい対応を依頼するなど連携を取っている。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の中に看護師の有資格者がおり、同じ敷地内に病院があり、相談しながら受診や看護を受けられるよう支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した場合は、看護師の資格を有する職員が医療機関に連絡を取る様になっている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けて、段階的に家族と話し合いを持ち、職員一同で検討している。	重度化や終末期については事業者の方針が明文化されている。面会時や心身状態に変化があった時に話をし段階的に対応をしている。利用者家族の意向をふまえて会議の場で話し合いを行っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時、適切な行動をとれるよう、マニュアルを基に緊急時の対応として定期的に勉強会を開いている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年に3回行っている。夜間の場合の連絡網の実践も行った。地域を支えて訓練を行っていないので、次回地域との協力体制をとって訓練を行っていききたい。	母体法人と合同で避難訓練は年に3回行っている、内1回は夜間を想定した職員間の連絡網の確認を行った。消防署の協力を得て利用者も参加してもらい避難訓練を行っている。非常用備品は事業者内に準備してある。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、言葉かけや態度には、十分注意している。	排泄の声掛けは耳元で行う、入浴時は安全に配慮しながら見守りや介助を行っている。一人でトイレへ行ける利用者でもズボンの上げ下ろしが不十分だったり、開けたまま排泄をしている時もあるので動きに注意をしている。他の家族に対しても情報をもらさないなどプライバシーへの配慮、人格の尊重に努めている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活では、本人の希望や思いを引き出しながら、十分に意思表示が出来る様努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴などは、他の事務所との関係上、時間を決めているが、その他の日常生活では、一人、1人のペースを把握し、望んでいるペースでケアに努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分としての意識を大切にもらっている。身だしなみやおしゃれに気を使う利用者もいるので、希望があれば支援している。2か月に一度、外出して散髪に行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞きながらメニューを決めたりしている。職員と一緒に片付けなどを行う場合もある。	メニューはパン食、麺類、丼物などが定期的に提供されている。朝の時点で、食べたい物がある時はおやつに用意をしたり食事に追加をするなど利用者の希望に対応をしている。職員と一緒に準備、食事、片づけを行っている。利用者が植えたプチトマトやパセリなどを食卓へ出すなど食事を楽しむ工夫を行っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養の偏りがないよう、職員で栄養バランス、水分量などを考えている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、利用者の口腔状況を把握し、清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り、トイレで用を足す支援を心掛けている。利用者の排泄パターンを把握し、支援を行っている。	できるだけトイレでの排泄ができるように対応をしている。利用者一人ひとりの排泄チェック表があり、定時誘導とその人の動きを見ながらトイレ誘導を行っている。オムツとパット使用からパンツとパット使用へ変わった利用者もあり、使用するオムツやパット類は時間帯や種類を検討して変更をしている。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者のほとんどが便秘の方である為、水分を多く摂ってもらったり、副作用の少ない便秘薬などで対応している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	他の事務所との関係もあるので、曜日や時間帯は決めている。	週に3回は入浴を行っている、利用者の状況により午前から午後の入浴や翌日の入浴など調整が可能である。浴室は月曜日から土曜日まで入浴の対応はできるようにしている。入浴の拒否者に対しては声掛けの工夫や時間の調整を行うことで一人ひとりのタイミングに合わせた入浴ができています。	曜日や時間に関わらず、入浴できる体制をとってほしい。
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢の利用者には、午前・午後どちらかで休憩をとっている。日中はなるべく体を動かさずなどして、夜間睡眠がとれるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人ひとりが利用者の処方箋の用法や用量を理解している。飲み忘れや誤薬を防ぐ為に投薬ケースを準備し職員が管理し支援している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者に掃除、洗濯物干し、たたみなど、役割を持って頂き、支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々の花見の外出又、年に2~3回の外食会などを計画し、戸外に出る支援をしている。	天気天候・利用者の体調や希望により散歩、買い物ドライブを行っている、家族会の開催に合わせて季節のお花見を行い、外食会・道の駅へドライブなど行っている。本人の希望に沿って出かけられるように支援をしている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じて、お金を所持している場合もあり、社会性の維持の為に所持や使うことに対しての支援を行っている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を家族へ出したり、自ら家族へ電話したり、家族からの電話がある場合はつないで話して支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は季節ごとに飾り付けをし、貼り絵など工夫している。	利用者は日中は共用のリビングで過ごしている時間が長く、ゆったりとしたソファが配置されている。食事の場所と過ごす場所の区切りをつけてから過ごしやすくしている。天窓もあり、窓も広く自然光が入っている。壁には外出時の写真や役割分担表・季節に合わせて利用者が作った作品が飾られている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル等、時々配置を変え、気の合った利用者同士が思い思いに過ごせるよう工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分のお気に入りの写真を飾ったり、絵を飾ったりしている。馴染みの物や使い慣れた好みの物を持ち込んでいいことは家族に伝えている。	入所前にしていた趣味活動の道具（裁縫道具や運動器具等）が持ち込まれている、馴染みのクッションや枕などもあり家族との写真も飾られている。以前は身寄りのない方でお仏壇を持ってこられた利用者もいた。馴染みの物の持ち込みができる事を家族にも伝えている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一律バリアフリーの為、車椅子などでの移動はスムーズに出来る。手すりなどを各所に配置しているので、本人の出来る限り使用するよう工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2 / 3 くらいと
				③ 家族の1 / 3 くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1 回程度ある
			○	③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている
			○	② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		① ほぼ全ての職員が
			○	② 職員の2 / 3 くらいが
				③ 職員の1 / 3 くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が
			○	② 利用者の2 / 3 くらいが
				③ 利用者の1 / 3 くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての家族等が
			○	② 家族等の2 / 3 くらいが
				③ 家族等の1 / 3 くらいが
				④ ほとんどいない